2025年度
事業報告書

2025年4月 〜 2026年3月

一般社団法人

sien sien west

2025年度の事業総括

2025年度も引き続き、七尾市の公設災害ボランティアセンターの補完として民間災害ボランティアセンターおらっちゃ七尾の運営を行った。

作業系支援では、依頼受付841件・完了852件、延べ10,949人のボランティア参加を受け入れ、家財搬出や片付け、生活再建支援等を実施した。また、ソフト系支援では199件・延べ約2,600名が参加し、地域コミュニティ支援や交流活動を展開した。さらに、七尾市全域の在宅被災世帯を対象にローラー訪問を実施し、19,965件の訪問を通じて530件のニーズ把握を行うなど、多面的な支援活動を行った。

また、複数の地域づくり協議会と連携し、防災手帳や地域防災計画の作成、地域行事の運営支援を通じて、地域防災力の向上と円滑な地域活動の実現に取り組んだ。

さらに、金沢で開催された「GAPPA ROCKS ISHIKAWA」への出展や、GAPPA ROCKSアフターボランティアの現地コーディネートを行い、ミュージシャンの力を借りながら、県外の方々が七尾へ足を運び、支援活動へ参加するきっかけづくりを行った。

また、「尽未来祭」や「東北ライブハウス大作戦 LIFE」への出展を通じて、震災後も継続した支援が必要であることを発信するとともに、被災地への関心が薄れないよう取り組んだ。

震災から時間が経過する中でも、被災者支援と地域コミュニティ支援の両面から継続的な支援活動を行い、地域内外をつなぐ役割を担った一年となった。

2025年度 主要実績サマリー

ボランティア参加者数
10,949人

作業完了件数
852件

災害ごみ搬出量
516.61t

ソフト系活動件数
199件

ローラー訪問件数
19,965件

ローラー訪問による ニーズ把握件数
530件

受入団体・組織数
企業・学校含む
206団体

クラウドファンディング
達成率141%
4,237,000円

講演登壇回数
33回

1. 作業系支援

2025年度の作業系支援では、公費解体や在宅再建、転居、家屋整理に伴い、家財搬出や片付け、清掃、引越し支援、公費解体前の家財搬出など、被災者が生活再建を進めていく際に必要となる作業支援を実施した。

特に、公費解体を控えた被災者にとっては、家屋内の家財を全て搬出しなければならない状況にあり、多くの世帯にとって大きな負担となっていたことから、その受け皿として支援を行った。発災から時間が経過したものの、公費解体が本格化する中で依頼件数は増加し、7月には270件を超える残存ニーズを抱える状況となった。

また、ヒビやぐらつきが発生し危険な状態となったブロック塀の解体撤去などの技術系支援も実施した。さらに、瓦のずれや雨漏りが発生している住宅に対しては、技術系支援団体との調整を行い、ブルーシート張りなどの応急対応を実施した。

加えて、多くのボランティアを受け入れながら継続的な支援活動を行うため、当団体独自でボランティア専用の災害ごみ仮置き場を設置した。これにより、一般ごみ処理施設が休日となる日でも災害廃棄物の受け入れが可能となり、作業の停滞を防ぎながら、円滑な支援活動を行える体制整備に取り組んだ。

県内外から多くのボランティアを受け入れ、安全管理や作業調整を行いながら活動を展開し、被災者の精神的・身体的負担の軽減と生活再建の後押しに取り組んだ。

年間実績

ボランティア参加者数	ご依頼受付件数	作業完了件数	作業対応件数（延べ）
10,949人	841件	852件	1,477件

主な作業系支援

・公費解体前の家財搬出、撤去支援
・震災由来で被害を受けた家屋内外の片付け支援
・引越し
・転居に伴う搬出支援
・危険なブロック塀の解体撤去
・ブルーシート張り等の応急対応調整

2. ソフト系支援

　震災により、公費解体や生活再建に伴って住み慣れた地域を離れ、仮設住宅等へ移り住む方が増える中、これまでの地域コミュニティが分断される状況が生まれた。
　また、仮設住宅では面識のない住民同士が新たな環境で生活を始めることとなり、孤立や不安を抱える方も多く見られた。

　こうした状況を受け、当団体では、茶話会やワークショップ、イベントなどのサロン活動を通じて、被災者同士が顔を合わせ、交流できる機会づくりを行った。

　活動は孤立防止だけでなく、地域内での情報共有や見守りの場としての役割も担い、被災された方々の心身のケアとコミュニティの維持・形成に取り組んだ。

　活動内容は、音楽、お茶会、マッサージ、ワークショップ、占いなど多岐にわたり、拠点や仮設住宅、地域コミュニティセンターだけでなく、地域のキーマンとなる住民宅や公費解体後の空き地なども活用し、地域住民同士が自主的に集まれるようになることを目指しながら、地域ごとの状況に応じてさまざまな規模や頻度で実施した。

　さらに、様々な事情により集会所へ足を運ぶことが難しい方に対しては、直接自宅へ訪問し、マッサージや足湯、訪問カット等を行うことで、見守りを兼ねた支援活動を展開した。

年間実績

総開催数	延べ参加者数（概算）
199回	約2,600人

ジャンル別内訳　※複数ジャンルにまたがる開催を含む

イベント（音楽・演奏・縁日等）	マッサージ 鍼灸・ボディケア	お茶会 おしゃべりコーヒー	ワークショップ（花・工作・畑等）	占い タロット相談	講習会 相談会
開催数 52回	開催数 48回	開催数 46回	開催数 46回	開催数 15回	開催数 8回
延べ参加者数 約1280人	延べ参加者数 約403人	延べ参加者数 約622人	延べ参加者数 約425人	延べ参加者数 約80人	延べ参加者数 約130人

開催場所区分

おらっちゃ七尾拠点開催	コミセン・学校・個人宅等	仮設住宅集会所
80回	73回	46回

参加者の声

「自分だけだったら部屋にいても時間が経つのが遅くてかなわんけど、みんなで話しとったらあっという間や」

「こういう機会がないと、なかなか外に出ない」

「ずっと我慢してきた思いが一気にあふれた」

3. ローラー訪問支援

　七尾市では、仮設住宅やみなし仮設住宅を対象とした見守り支援が行われる一方、損壊した自宅で生活を続ける在宅被災者については、支援や見守りにつながりにくい状況があった。

　また、支援制度の周知不足や制度の複雑さ、「自分たちは我慢する」といった被災者意識もあり、支援の抜け漏れが懸念されていた。

　こうした状況を受け、当団体では七尾市全域の在宅被災者を対象に19,965件のローラー訪問を実施し、生活再建状況や困りごとの聞き取り、支援制度の案内、必要な支援機関へのつなぎなどを行った。

また、訪問活動を通じて530件のニーズ把握を行い、孤立防止に取り組みながら、被災者の生活再建を後押しした。把握したニーズについては、作業系支援や専門支援、各関係機関へつなぐことで、継続的な支援体制の構築にも取り組んだ。

訪問期間　**2025年4月3日〜2026年3月31日**

訪問エリア　**袖ヶ江･崎山･西湊･和倉･田鶴浜･能登島･中島･東湊･矢田郷･石崎･御祓･徳田･高階･南大呑･北大呑（全15地区）**

※徳田地区　細口町と下町２町会に関しては町内会長の意向により未訪問

総訪問総数　**19,965件**

※アパートは1棟1件としてカウント

対面できた件数	ニーズ把握件数
11,712件 対面率 58.7%	530件

把握したニーズ内訳

　訪問で把握したニーズは「作業系支援」「手続き支援」「みまもり支援」の3カテゴリに分類されます。一件の世帯が複数のニーズを抱えるケースも多く存在します。

作業系支援	手続き支援	みまもり支援
231件	216件	83件
片づけ・家財移動・引越し ブルーシート張り建具調整 ブロック塀解体など	災害義援金や生活再建支援金などのなど申請のための フォローアップや申請同行	孤立・精神的不調・高齢者・障害者世帯等を行政への接続やSEEDs対応を行う

在宅被災者への訪問サービス

外出が困難な在宅被災者を対象に、訪問カフェ（13回・59名）、訪問足湯（6回）、訪問ヘアカット（1回）を計20回実施した。看護師によるハンドケアや学生ボランティアによる足湯など、見守りを兼ねた多様な訪問サービスを届けた。

個別ケース会議

ローラー訪問で把握した複合的な困難を抱える世帯に対し、関係機関と連携した個別ケース会議を14件実施した。これらはいずれも通常の片付け支援では発見・解決できない深刻なケースであり、ローラー訪問によって初めて実態が可視化され、行政や専門機関への適切なつなぎにつながった。

「我慢しているだけ」で誰にも声を届けられていない被災者が、七尾市には確実に存在する。ローラー訪問で、その存在を可視化し、多くの支援につなぐことができた。

4. ボランティア専用災害ごみ仮置き場「旭町倉庫」設置・運営

2024年7月末に七尾市の災害ごみ仮置き場が閉鎖され、一般ごみ処理施設への搬入へ移行したことで、週末に集中するボランティア活動との時間的なミスマッチや、細かな分別対応が課題となっていた。

こうした課題を解決するため、2025年3月に七尾市環境課との委託事業として、ボランティア専用災害ごみ仮置き場「旭町倉庫」を開設した。委託期間は1か月間であったが、委託終了後も片付けニーズが継続していたことから、2025年度は当団体独自で倉庫を借り受け、運営を継続した。

旭町倉庫では、被災家屋から搬出された家財や災害ごみを平日・休日を問わず受け入れ、一時保管および再分別を行ったうえで一般ごみ処理施設へ搬入した。

これにより、処理施設の開場状況に左右されることなく家財搬出作業を進めることが可能となり、週末のボランティア活動を止めることなく、多くの片付けニーズへ迅速に対応することができた。

また、被災者の了承を得た輪島塗や九谷焼、金属類などについては再活用先への橋渡しを行った。災害ごみとして処分するだけでなく、地域の文化や資源を次世代へつなぐ取り組みとしても機能し、一部は活動資金として活用した。

旭町倉庫は、災害ごみ処理とボランティア活動をつなぐ中間支援拠点として、円滑な支援活動の継続を支える重要な役割を担った。

運営期間	**2025年3月1日～2026年3月31日**
搬出災害ごみ量	**516.61トン（516,610kg）軽トラック約1,476台分**
処理費用	**9,907,245円（七尾市負担）**

主な再活用品

輪島塗、九谷焼、金属類、古紙など分別を行い一時的に保管することができるからこそ、次に繋ぐことができた。

一般ごみ処理施設の休場日に関係なく、週末のボランティア活動を継続できる体制を構築した

5. 夢基金事業

一般社団法人sien sien westでは、七尾市内の地域づくり協議会およびまちづくり協議会からの依頼を受け、各協議会が活用する夢基金事業の企画・運営支援を実施した。

地域防災力の向上と震災後の地域コミュニティ再生を目的に、防災手帳の作成、防災備品の整備、地区防災計画策定支援、防災セミナーやワークショップの開催、地域行事の運営支援など、多様な取り組みを地域住民とともに展開した。

本事業を通じて、地域住民、地域づくり協議会、行政、大学、企業、ボランティアなど多様な主体をつなぎながら、地域主体の防災・復興・まちづくりを支える基盤づくりに取り組んだ。

実施事業数

6地区10件

実施地区

東湊・北大呑・南大呑・崎山・田鶴浜・石崎・西湊
（地域づくり協議会／まちづくり協議会）

主な実施事業

地域防災力向上支援　【東湊地区地域づくり協議会】

東湊地区の地域防災力向上を目的に、地域住民参加型による「地域防災手帳」の企画・作成を実施した。佐野町30部、殿町・沢野町100部を作成し、ハザードマップや地域特性を反映した内容を地域住民と確認しながら取りまとめた。また、防災食・防災用毛布、防災バッグ（20点セット）の発注・納品を行い、地域の防災体制強化を支援した。

3地区連携 避難方針整理・地区防災計画セミナー【北大呑地区地域づくり協議会】

七尾湾東方断層帯を震源とする地震・津波災害を想定し、北大呑・南大呑・崎山の3地区連携による避難方針整理および地区防災計画策定に向けた取り組みを実施した。香川大学高橋氏を講師に迎え、地域課題を整理するワークショップと今後の方向性について協議を行った。また、「七尾シーサイドラインワンチームプロジェクト」を立ち上げ、地域連携による防災活動の推進を確認した。

地域防災計画 骨子案作成【田鶴浜地区地域づくり協議会】

地域防災計画骨子案の作成づくりを令和８年度中の完成を目指し、協議会等へのヒアリングや内容・方向性の確認など下準備を実施。

地域コミュニティ再生支援【石崎地区まちづくり協議会】２事業

GAPPA ROCKSアフターボランティアと連携したベンチづくりワークショップや、KDDI労働組合ボランティア約150名と連携した花壇づくりを実施した。公費解体跡地を活用し、震災により失われた地域の交流空間の再生と、地域住民が集える場づくりを支援した。

地域行事支援【石崎地区まちづくり協議会】２事業

石崎敬老会におけるゲストアテンドや、新春のつどいの事務サポートを実施した。地域行事の運営支援を通じて、地域コミュニティの維持・活性化を支援した。

地域運営支援・人材育成【西湊地区地域づくり協議会】２事業

地域づくり協議会の各部会会議に参加し、震災復興と地域活動再構築に向けたアドバイザー業務を実施した。また、にいがた災害支援ネットワーク李氏を講師に迎え、地域の話し合いを円滑に進めるためのファシリテーション講習会を開催し、地域運営を担う人材育成を支援した。

6. GAPPA ROCKS ISHIKAWA アフターボランティア

2025年5月10日に金沢で開催された音楽フェス「GAPPA ROCKS ISHIKAWA」の翌日、出演アーティストやファンが能登を訪れ、ボランティア活動を体験した。おらっちゃ七尾は体験会全体の調整を担い、七尾市内での活動をコーディネートした。

家財搬出やブロック撤去などの作業系支援に加え、ベンチづくり・花壇づくりのワークショップ、お茶会、セラピードッグ、子ども向け運動教室、ミニライブ、写真洗浄などの交流活動を実施し、多様な形で被災地支援と地域交流を行った。

開催日　**2025年5月11日(日)**
会場　**能登香島駐車場　活動エリア　七尾市全域**
主催　**GAPPA ROCKS ISHIKAWA実行委員会**
協力　**民間災害ボランティアセンター おらっちゃ七尾 / 一般社団法人 sien sien west LINEYahoo!**

総参加者数
約320名

参加アーティスト
BRAHMAN、YOH（ORANGE RANGE）、locofrank、プッシュプルポット、片平里菜、キヨサク（MONGOL800 / UKULELE GYPSY）、Tokyo Tanaka（MAN WITH A MISSION）

参加アスリート　日本財団HEROs
杉本一樹、荒井daze善正、竹村幸、東俊介、笹原龍、杉山美沙、根木慎志、小塚崇彦

支援団体
コミサポひろしま、チームふじさん、ONE TEAM、コネクト、復興支援福岡、RE:BIRTH、OPEN JAPAN、幡ヶ谷再生大学、カリタスのとサポートセンター、CDSTおれんじぴーす、災害NGO結、レスキューアシスト、日本レスキュー協会、グッドネイバーズジャパン、テンギョークラ、あらいぐま

運営協力
ボランティアインフォ、チーム・ユニコン、江若交通、心援隊びわこ、能登島交通

地域協力
石崎地区まちづくり協議会

オリエンテーション動画

アフターボランティアにあわせて制作されたオリエンテーション動画（MAN WITH A MISSIONのTokyo Tanaka氏出演）は、チーム・ユニコンの全面協力により制作された。撮影費用はチーム・ユニコンにご負担いただき、Tokyo Tanaka氏およびナレーションを担当したみょんふぁ氏も無償で出演いただいた。

本動画はイベント当日のみならず、現在もおらっちゃ七尾での活動時に毎朝実施するオリエンテーション動画として継続活用している。一日限りのイベントにとどまらず、能登とのつながりを持続させるきっかけとして、現在も多くのボランティアに視聴されている。

7.ボランティア応援パス

発災以降、多くのボランティアが七尾を訪れ支援活動に参加してきたが、時間の経過とともに参加者数は減少傾向にあった。

そこで、おらっちゃ七尾では、継続的な参加促進と地域経済の活性化を目的に「ボランティア応援パス」を開始した。

ボランティア活動参加者に「参加証明券」を発行し、市内の協力店舗や施設で提示すると各種特典が受けられる仕組みを構築した。

活動後に地域を利用してもらうことで、七尾の魅力や人とのつながりを感じてもらい、「また来たい」「応援したい」と思える関係づくりを目指した。

ボランティア応援パスは、支援活動と地域をつなぎ、関係人口の創出と地域経済の活性化を後押しする取り組みとなった。

協力店舗数
21店舗

飲食店・カフェ：14店舗　温浴施設：2施設　タクシー：1社　観光施設：1施設
小売・土産店等：3店舗

あうん／あばろーに／うみまち商店／梅屋常五郎／ケーキとカフェのGreen One／白馬咖喱／台湾伝統美食／太左エ門／TENKU café J.Road／能登ミルク本店／能登食祭市場浜焼きコーナー／珈琲レストラン はいだるい／平野屋／ゆけむりの宿 美湾荘／中華料理 ふあんてん／スナック フルール／Bakeshop anan ベイモール店／弁天湯／マリンみなと交通／リトルピクニック／和倉温泉お祭り会館

8.産業体験ボランティア

全国から訪れるボランティアに七尾の産業や地域の魅力を体感してもらい、関係人口の創出につなげることを目的として、七尾市中島町の宮本水産と連携し、2026年3月14日から「牡蠣漁師体験ボランティア」を開始した。

参加者は、牡蠣の出荷に向けたロープからの選別作業やフジツボの除去作業などを体験し、地域産業の担い手と交流しながら七尾の魅力に触れた。参加したボランティアからは「普段できない貴重な体験ができた」といった声も聞かれた。

本事業には延べ3名が参加し、復興支援に加え、地域産業との接点を創出することで、「また七尾に来たい」と思える関係づくりにつながる取り組みとなった。ボランティアを関係人口へとつなげる新たな取り組みとして実施した。

9.石崎奉燈祭給水ボランティア

2025年8月2日に開催された「石崎奉燈祭」において、キリコ奉燈の担ぎ手や祭礼関係者を対象とした給水支援ボランティアを実施した。

当日は2か所の給水拠点を設置し、全国から集まったボランティアとともに飲料提供や休憩支援を行った。

祭礼関係者からは「非常に助かった」との声をいただき、地域行事を支える新たな支援の形として評価された。また、次年度以降の協力についても声をかけていただくなど、地域との継続的な関係づくりにつながった。

協力：石崎町奉燈祭奉賛会、サントリー

10.クラウドファンディング

おらっちゃ七尾の活動継続を目的として、2025年7月から9月にかけてクラウドファンディングを実施した。
「能登地震から1年半——最後の一人まで支援を届けるために、災害ボランティアセンターの活動を継続したい」をテーマに支援を呼びかけた結果、360名の皆さまから目標金額300万円を大きく上回る4,237,000円（達成率141%）のご支援をいただいた。
発災から時間が経過する中でも、多くの方々が能登や七尾のことを想い、活動を応援してくださっていることを改めて実感する機会となった。いただいたご支援は、被災者支援や地域コミュニティ再生に向けた活動の継続に活用している。

プロジェクト概要

プロジェクト名
能登地震から1年半、最後の一人まで支援を届けるために災害ボランティアセンターの活動を継続したい

募集期間
2025年7月19日 ～ 2025年9月23日

目標金額
3,000,000円

達成金額	支援者数	目標達成率
4,237,000円	**360名**	**141%**

大口ご寄付者さま（敬称略）
以下の法人・個人の皆さまより、特段のご支援を賜りました。心より御礼申し上げます。

株式会社ホカヤシキ　みんなのわいっぽいっぽ　カリタスジャパン

安藤保　かじぼん&かじちゃん　宮澤元子　REvive Japan

東近江塩元帥　ひとつなぎ　村上浩之　鵜井謙

大松大洋　ケーキとカフェのGreenOne　五味悠一郎　嶋本和弘　たかのぶ　寺田晃司
浜岡盛治　マジンGO　三室亜生　矢ヶ崎英次郎　山田健吾　八木努　ヨーズバーガー

11.支援グッズ

2025年7月より、被災地支援を継続していくための自主財源づくりを目的として、石川県宝達志水町の老舗茶舗「油谷製茶」と連携し、オリジナル商品「Ola!!cha（おらっちゃ）」の販売を開始した。

商品の売上は、おらっちゃ七尾が実施する被災者支援や地域コミュニティ支援活動に活用している。商品を通じて被災地支援に参加できる機会を創出するとともに、震災後も能登や七尾とのつながりを持ち続けてもらうための取り組みとして実施した。

販売数
累計２４００パック

12.団体、企業、学校受け入れ

2025年度は、全国各地から多くの団体・企業・学校等を受け入れました。

災害支援団体・ボランティア団体106団体、企業・労働組合等45社、高等学校19校・大学16校・専門学校1校・中学校3校・小学校2校の計41校、社会福祉協議会等7団体、行政機関7機関を合わせ、計206団体・組織、延べ835件・延べ約4,664名の受入れを行いました。

企業ではジョンソン・エンド・ジョンソン、KDDI、サントリー、荏原製作所、中外製薬、トヨタ紡織、ヴィッセル神戸など、学校では神戸大学、早稲田大学、明治大学、国士舘大学など、多様な皆さまにご参加いただきました。

また、ヘルピングハンズ、日本笑顔プロジェクト、幡ヶ谷再生大学をはじめ、多くの団体が継続的に七尾へ足を運び、支援活動を支えてくださいました。

受入団体・組織数　**206団体・組織（延べ835件）**

受入種別　**企業・労働組合／高校・大学・専門学校・中学校・小学校**
社会福祉協議会／行政／ボランティア団体 等

延べ参加人数　**約4,664名**

参加支援団体	参加企業・組合	参加学校
106団体	**45社**	**41校**
延べ3,136名	延べ733名	延べ736名
カリタスのとサポートセンター、チーム・ユニコン 幡ヶ谷再生大学、ヘルピングハンズ、日本笑顔プロジェクト など	ジョンソン・エンド・ジョンソン、KDDI、サントリー、荏原製作所、中外製薬、トヨタ紡織、ヴィッセル神戸 など	神戸大学、早稲田大学、明治大学、国士舘大学、千葉県立四街道高等学校、東京白百合学園 など 高校19/大学16/専門学校1/中学校3/小学校2

13.講演・視察受入れ・研修等

2025年度は、企業、大学、高等学校、社会福祉協議会、行政機関、地域団体などを対象に、講演・視察受入れ・研修等を計33件実施しました。

人事院研修、京都府社会福祉協議会、七尾ロータリークラブ、七尾青年会議所（JC）、神戸大学、法政大学、東洋大学、東京白百合学園高等学校、上田西高等学校などにおいて講演を行ったほか、企業の視察や研修を目的としたJTBツアーの受入れも行い、三井物産、りそな銀行、日本科学技術研究所などの企業関係者に対して講演を行いました。

能登半島地震後の支援活動や地域の現状、おらっちゃ七尾の取り組みについて発信するとともに、七尾で得られた経験や教訓を共有し、全国各地の民間支援団体や関係機関による今後の災害支援体制の強化や迅速な支援活動につながることを願い、お話をさせていただきました。

また、講演や視察受入れを通じて新たなつながりが生まれ、復興支援だけでなく、今後の地域づくりや関係人口の創出にもつながりました。

講演・登壇回数　**33回**

主な対象　**大学・高校・小中学校／社会福祉協議会／行政・議会／経済団体／企業 等**

実施形態　**オンライン6件／拠点（おらっちゃ）18件／外部会場6件 ほか**

14.出展・出店活動

　2025年度は石川・富山・首都圏など各地で開催されるイベントに出展し、募金活動や支援グッズの販売も行った。

　会場では能登の現状や支援活動の発信に努めるとともに、来場者へ継続的な支援への協力を呼びかけ、実際に七尾へ足を運ぶきっかけづくりにも取り組んだ。

　あわせて、活動資金の確保や、加賀棒ほうじ茶「Ola!!cha」をはじめとするオリジナルグッズ・アップサイクル商品の販売を通じて、能登の魅力や地域資源を全国へ届けた。

　一過性の支援にとどまらず、能登とのつながりを持続させ、関心を絶やさないための継続的な発信の場として取り組んだ

出展実績

2025年5月10日	**GAPPA ROCKS ISHIKAWA（石川県産業展示館）** アフターボランティア体験会の説明動画上映（MAN WITH A MISSION・トーキョー・タナカ氏出演）、募金活動・グッズ販売
2025年7月12日13日	**back on live FES 2025（バール・デ・美富味／富山 MAIRO）** 組子細工ストラップ、アップサイクルヘアゴム・シュシュの販売、募金活動
2025年11月22~24日	**尽未来祭（幕張メッセ）** 「ゴミ袋大作戦」と題し、ゴミ袋寄付の呼びかけ、特製コラボステッカー配布、募金活動・グッズ販売
2026年3月10日11日	**東北ライブハウス大作戦"LIFE"（ぴあアリーナMM）** 募金活動・LIFEとのコラボグッズ（加賀棒ほうじ茶・コインケース・ピックキーホルダー）販売、コラボステッカー配布
2026年3月21日	**#WAKUをこえろ！（能登演劇堂）** 物販ブース出展（Ola!!cha・組子細工ストラップ・アップサイクルシュシュ等）

15.メディア掲載・出演

　おらっちゃ七尾の活動は、テレビ・新聞・ラジオ・Webメディアなど数多くの媒体に取り上げられた。

被害が見えにくい七尾市の現状や、在宅被災者へのローラー訪問、音楽フェスと連携したアフターボランティアなど、当団体ならではの取り組みが広く発信され、全国からの支援やボランティア参加につながった。

　また、発災から時間の経過とともに被災地への関心が薄れがちな中、継続的な報道は能登・七尾の現状や支援のあり方、復興に向けた課題を伝える重要な役割を果たした。メディアを通じた情報発信は、支援の輪を維持・拡大するとともに、地域の復興を後押しする大きな力となった。

媒体・番組

テレビ	フジテレビ ドキュメンタリー『GAPPA ROCKS ISHIKAWA - 被災地の「現在」と音楽がつむぐ支援の輪 -』／NHK「まるっと!」／NHK「明日をまもるナビ」／NHK Eテレ「ハートネットTV」／NHK金沢／MRO北陸放送／TOKYO MX
新聞	北陸中日新聞／北國新聞／読売新聞／朝日新聞／毎日新聞
ラジオ	MRO北陸放送「ノコトラジオ」など
Web・動画	東北ライブハウス大作戦"LIFE" #08【細美武士 × 今井健太郎】能登半島地震支援回／Yahoo!ニュース／8bitNewsなど